

安全データシート

改訂日: 2020年10月27日

1. 製品及び会社情報

化学品の名称
会社名
住所
電話番号

クロム酸カリウム溶液 (濃度調製品)
米山薬品工業株式会社
大阪市中央区道修町2丁目3番11号
(06)6231-3555 (大阪・本社)
(03)3246-2311 (東京) (0268)22-5910 (上田)
(052)504-2221 (名古屋) (082)537-0290 (広島)
BC0376S

整理番号

別表1. 当SDSの適用品名一覧
10%クロム酸カリウム溶液
5%クロム酸カリウム溶液
2%クロム酸カリウム溶液
1/30 mol/L クロム酸カリウム溶液

2. 危険有害性の要約

GHS分類

別表2 各クロム酸カリウム溶液濃度とGHS分類及びラベル要素対照表

GHS分類及びラベル要素	クロム酸カリウム溶液	10%クロム酸カリウム溶液	5%クロム酸カリウム溶液	2%クロム酸カリウム溶液	1/30 mol/L クロム酸カリウム溶液	
健康に対する有害性	急性毒性 (経口)	区分4	区分5			
	皮膚腐食性/皮膚刺激性	区分1	区分1	区分2		
	眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	区分1	区分1	区分2		
	皮膚感作性	区分1	区分1	区分1		
	呼吸器感作性	区分1	区分1	区分1		
	生殖細胞変異原性	区分1B	区分1B	区分1B	区分1B	
	発がん性	区分1	区分1	区分1	区分1	
	生殖毒性	区分1B	区分1B	区分1B	区分1B	
	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分1 (中枢神経系、血液系、呼吸器、心血管系、肝臓、腎臓)	区分2 (中枢神経系、血液系、呼吸器、心血管系、肝臓、腎臓)	区分2 (中枢神経系、血液系、呼吸器、心血管系、肝臓、腎臓)		
	特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	区分1 (呼吸器)	区分2 (呼吸器)	区分2 (呼吸器)		
環境に関する有害性	水生環境有害性 短期 (急性)	区分2	区分2	区分3	区分3	
	水生環境有害性 長期 (慢性)	区分2	区分2	区分3	区分3	
ラベル要素	絵表示又はシンボル					
	注意喚起語	危険				
危険有害性情報 (コードのみ)	H302 H314 H317	H303 H314 H317	H315 H317 H319	H340 H350 H360		

	H318 H334 H340 H350 H360 H370 H372 H401 H411	H318 H334 H340 H350 H360 H371 H373 H401 H411	H334 H340 H350 H360 H371 H373 H402 H412	H402 H412
注意書き ^(※1) (コードのみ)				
【安全対策】	P202 P260 P261 P264 P270 P272 P273 P280 P284	P202 P260 P261 P264 P270 P272 P273 P280 P284	P202 P260 P261 P264 P270 P272 P273 P280 P284	P201 P202 P273 P280
【応急措置】 ^(※2)	P301+312 P301+330+331 P302+352 P303+361+353 P304+340 P305+351+338 P308+311 P308+313 P310 P314 P330 P333+313 P342+311 P363 P391	P301+330+331 P302+352 P303+361+353 P304+340 P305+351+338 P308+311 P308+313 P310 P312 P314 P333+313 P342+311 P363 P391	P302+352 P304+340 P305+351+338 P308+311 P308+313 P314 P332+313 P333+313 P337+313 P342+311 P362+364 P391	P308+313
【保管】 ^(※2)	P405	P405	P405	P405
【廃棄】 ^(※2)	P501	P501	P501	P501

※1)表中にて、危険有害性情報と注意書きはコードのみ記載しております。各コードに割り当てられた文言は、下記をご参照ください。

※2)SDS及びラベル記載の危険有害性情報・注意書きについて、弊社の製品管理方法、弊社製品の化学的性質に基づき、GHSガイダンスに従い、コードの文言を省略又は変更する事があります。

危険有害性情報

- 飲み込むと有害 (H302)
- 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷 (H303)
- 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷 (H314)
- 皮膚刺激 (H315)
- アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ (H317)
- 重篤な眼の損傷 (H318)
- 強い眼刺激 (H319)
- 吸入するとアレルギー、ぜん息又は呼吸困難を起こすおそれ (H334)
- 遺伝性疾患のおそれ (H340)
- 発がんのおそれ (H350)
- 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ (H360)
- 中枢神経系、呼吸器、心血管系、血液系、肝臓、腎臓の障害 (H370)
- 中枢神経系、呼吸器、心血管系、血液系、肝臓、腎臓の障害のおそれ (H371)
- 長期にわたる、又は反復ばく露による呼吸器の障害 (H372)
- 長期にわたる、又は反復ばく露による呼吸器の障害のおそれ (H373)
- 水生生物に毒性 (H401)
- 水生生物に有害 (H402)
- 長期継続的影響によって水生生物に毒性 (H411)
- 長期継続的影響によって水生生物に有害 (H412)

注意書き

- 【安全対策】
- 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。(P202)

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。(P260)
 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。(P261)
 取扱い後は手などをよく洗うこと。(P264)
 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。(P270)
 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。(P272)
 環境への放出を避けること。(P273)
 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。(P280)
 換気が不十分な場合、呼吸用保護具を着用すること。(P284)

【応急処置】
 飲み込んだ場合、気分が悪いときは医師に連絡すること。(P301+312)
 飲み込んだ場合、口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
 (P301+330+331)
 皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。(P302+352)
 皮膚又は髪に付着した場合、直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚
 を流水/シャワーで洗うこと。(P303+361+353)
 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿で休息させるこ
 と。(P304+340)
 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着
 用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 (P305+351+338)
 ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師の連絡をすること。(P308+311)
 ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師の診断/手当を受けること。
 (P308+313)
 直ちに医師に連絡すること。(P310)
 気分が悪いときは医師に連絡すること。(P312)
 気分が悪いときは、医師の診断/手当を受けること。(P314)
 口をすすぐこと。(P330)
 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断/手当を受けること。(P332+313)
 皮膚刺激又は発疹が生じた場合、医師の診断/手当を受けること。
 (P333+313)
 眼の刺激が続く場合、医師の診断/手当を受けること。(P337+313)
 呼吸に関する症状が出た場合、医師に連絡すること。(P342+311)
 汚染された衣類を全て脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。
 (P362+364)
 汚染された衣類を再使用する場合は洗濯すること。(P363)
 漏出物を回収すること。(P391)

【保管】
 容器を密閉して涼しく換気の良い場所で、施錠して保管すること。

【廃棄】
 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に
 業務委託すること。

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別

混合物

化学名

クロム酸カリウム溶液

化学式

K₂CrO₄

化学物質を特定できる一般的な番号

CAS RN: 7789-00-6

成分及び含有量

クロム酸カリウム溶液 100% (①クロム酸カリウム、②水)

※各製品の含有量は、別表3.濃度表を参照。

官報公示整理番号(化審法、安衛法)

(1)-661

別表3. 濃度表

表示濃度(品名)	成分①	含有量 (重量%)	成分②	含有量 (重量%)
10%クロム酸カリウム溶液	クロム酸カリウム (CAS RN:7789-00-6)	30	水 (CAS RN:7732-18-5)	70
5%クロム酸カリウム溶液		5		95
2%クロム酸カリウム溶液		2		98
1/30 mol/L クロム酸カリウム溶液		0.65		99.35

4. 応急措置

吸入した場合

呼吸が困難な場合には、新鮮な空気のある場所へ移動し、呼吸しやすい
 姿勢で休息させること。直ちに医師に連絡すること。

気分が悪い時は医師の診断/手当を受ける。

皮膚に付着した場合

直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、又は取り去ること。

多量の水と石鹼で洗うこと。

直ちに医師に連絡すること。

眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。直ちに医師に連絡すること。
5. 火災時の措置	水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類
適切な消火剤	棒状放水
使ってはならない消火剤	消火水は汚染を引き起こすおそれがある。
特有の危険有害性	危険でなければ火災区域から容器を移動する。
特有の消火方法	消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
消火を行う者の保護	移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。
6. 漏出時の措置	適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。
人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。
環境に対する注意事項	風上に留まる。 作業者は適切な保護具(『8. ばく露防止措置及び保護措置』の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。 漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。 適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。 立ち入る前に、密閉された場所を換気する。 環境中に放出してはならない。
封じ込め及び浄化の方法及び機材 二次災害の防止策	河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。 希釈水は汚染を引き起こすおそれがある。 希釈水は腐食性及び/又は毒性があり汚染を引き起こすおそれがある。 本製品は、水汚染物なので土壌汚染、もしくは排水溝及び排水系及び大量の水に流入することを防止する。 漏洩物を掃き集めて密閉できる空容器に回収し、後で廃棄処理する。 該当情報なし。
7. 取扱い及び保管上の注意	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載に従う。 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
取扱い	火気注意。
技術的対策(局所排気、全体換気等)	取扱い後はよく手を洗うこと。
安全取扱注意事項	飲み込みを避けること。
接触回避	皮膚との接触を避けること。
保管	粉じん、ヒュームの吸入を避けること。
技術的対策	ガスの吸入を避けること。
安全な保管条件	眼、皮膚に付けないこと。
容器包装材料	粉じん、ヒュームを吸入しないこと。
8. 暴露防止及び保護措置	ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
許容濃度	眼に入れないこと。
	取り扱い後は手を洗う。
	皮膚と接触しないこと。
	汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
	接触、吸入又は飲み込まないこと。
	環境への放出を避けること。
	『10. 安定性及び反応性』を参照。
	特別に技術的対策は必要としない。
	冷所、換気の良い場所で保管すること。
	容器を密閉して保管すること。
	施錠して保管すること。
	ガラス

管理濃度 日本産業衛生学会	0.05mg/m ³ (クロムとして) 0.05 mg/m ³ (クロムとして、6価クロム化合物)、0.01 mg/m ³ (クロムとして、ある種の6価クロム化合物)
ACGIH 設備対策	TLV-TWA 0.05 mg/m ³ (クロムとして、水溶性クロム(VI)化合物) 防爆の電気・換気・照明機器を使用すること。 この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 空気中の濃度を制御するには、一般適正換気で十分である。 特別な換気要求事項はない。 本製品を貯蔵又は使用する設備は、眼洗浄施設及び安全シャワーを設置したほうがよい。
保護具	
呼吸器の保護具	適切な呼吸器保護具を着用すること。
手の保護具	適切な保護手袋を着用すること。
目の保護具	適切な眼の保護具を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	適切な保護衣を着用すること。
9. 物理的及び化学的性質	
物理状態	澄明な液体
色	黄色～橙色
臭い	無臭
融点・凝固点	975℃(クロム酸カリウムとして)
沸点、初留点及び沸騰範囲	1000℃(クロム酸カリウムとして)
可燃性	不燃性
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	不燃性
引火点	不燃性
自然発火温度	不燃性
分解温度	該当情報なし。
pH	9.0～9.8(5%, 20℃)
動粘性率(粘度)	該当情報なし。
溶解度	65.0g/100g(水, 25℃) 水に易溶。エタノールに不溶。(クロム酸カリウムとして)
n-オクタノール/水分分配係数	該当情報なし。
蒸気圧	0mmHg(クロム酸カリウムとして)
密度及び/又は相対密度	2.73(クロム酸カリウムとして)
	10%水溶液 約1.08
	5%水溶液 約1.04
相対ガス密度	6.9g/L(クロム酸カリウムとして)
蒸発速度	該当情報なし。
10. 安定性及び反応性	
反応性、化学的安定性	通常取り扱いにて安定である。
危険有害反応可能性	通常取り扱いにて安定である。
避けるべき条件	該当情報なし。
混触危険物質	該当情報なし。
危険有害な分解生成物	該当情報なし。
11. 有害性情報	
急性毒性	経口 : マウスのLD50値として、180 mg/kgとの報告(HSDB (Access on December 2014))に基づき、区分3とした。新たな情報源(HSDB (Access on December 2014))を追加し、区分を見直した。 水溶液は、ガイダンスに従い加算式(ATEmix=100 / ((各水溶液の濃度 / 180mg/kg))により分類した。
	経皮 : 該当情報なし。
	吸入 : 該当情報なし。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	ヒトへの急性影響として、本物質適用による皮膚脱落や壊死が報告されている(ATSDR(2012))。また、職業ばく露の報告で本物質を含む6価クロム化合物のばく露により潰瘍や瘢痕がみられたとの報告がある(ATSDR(2012))。その他に、具体的な試験報告ではないが、本物質を含む6価のクロム化合物について、腐食性を持つとの記載が多くある(EU-RAR(2005)、DFG vol. 3(1992)、産業衛生学会 許容濃度の提案理由書(1989))。以上の結果から区分1と判断した。なお、本物質はEU DSD分類で「Xi; R38」、EU CLP分類で「Skin Irrit. 2 H315」に分類されている。水溶液は、ガイダンスに従い加算方式が適用できる成分から分類した。(濃度限界:5%→区分1, 1%以上5%未満→区分2)

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

皮膚腐食性/刺激性の分類が区分1のため、ガイダンスに基づき区分1とした。なお、本物質はEU DSD分類で「Xi; R36」、EU CLP分類で「Eye Irrit. 2 H319」に分類されている。
水溶液は、ガイダンスに従い加成分が適用できる成分から分類した。（濃度限界：3%→区分1, 1%以上3%未満→区分2）

呼吸器感受性又は皮膚感受性

呼吸器： 日本産業衛生学会はクロム化合物として気道感受性物質「第2群」に分類している。この既存分類は本物質を明示していないものの、許容濃度の提案理由書（1989）には、6価のクロム化合物は2価や3価のものより毒性が強いとの記載がある。また、クロム化合物は喘息を引き起こすとの記載がある（ATSDR（2012）、EU-RAR（2005））。以上から区分1とした。
水溶液はガイダンスに従い、クロム酸カリウムが1%以上の製品は区分1とした。

皮膚： 本物質を含むクロム化合物は、日本産業衛生学会で皮膚感受性物質「第1群」に分類されている（日本産業衛生学会許容濃度の勧告（2014））。この既存分類は本物質を明示していないものの、許容濃度の提案理由書（1989）には、6価のクロム化合物は2価や3価のものより毒性が強いとの記載がある。また、本物質に限定された情報ではないが、6価のクロム化合物について皮膚感受性をもつとの記載がある（EU-RAR（2005）、ATSDR（2012）、PATTY（6th, 2012））。また、6価のクロム化合物を用いたヒトに対するパッチテストにおいて、感受性がみられたとの報告がある（ATSDR（2012））。以上から区分1とした。なお、本物質はEU DSD分類で「R43」、EU CLP分類で「Skin Sens. 1 H317」に分類されている。
水溶液はガイダンスに従い、クロム酸カリウムが1%以上の製品は区分1とした。

生殖細胞変異原性

In vivoでは、マウス及びハムスターの小核試験で陰性結果もあるが、多くのデータで陽性、姉妹染色分体交換試験、マウス末梢血リンパ球のDNA損傷試験で陽性、ラット肝細胞の不定期DNA合成試験で陰性である（ATSDR（2012）、CICAD 78（2013）、ATSDR（2012））。In vitroでは、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞及びヒト培養細胞の染色体異常試験で陽性である（ATSDR（2012）、IARC 49（1990））。以上の知見及び本物質は水溶性Cr(VI)のため、区分1Bとした。
水溶液はガイダンスに従い、クロム酸カリウムが0.1%以上の製品は区分1とした。

発がん性

IARCでグループ1（クロム（VI）として）（IARC（1990））、ACGIHでA1（クロムVI化合物として）（ACGIH（2001））、NTPでK（6価クロム化合物として）（NTP RoC（2013））、日本産業衛生学会で1（クロム化合物（6価）として）（日本産業衛生学会（1989））であることから、区分1Aとした。なお、EUでは2（EU（Access on Dec. 2014））となっている。
水溶液はガイダンスに従い、クロム酸カリウムが0.1%以上の製品は区分1とした。

生殖毒性

ラットを用いた経口経路（飲水）での催奇形性試験において、母動物毒性の記載はないが生殖・発生影響（着床前および着床後胚損失の増加、吸収胚の増加、死亡胎児の増加、胎児体重減少、内臓奇形（腎孟拡張）、骨格奇形（頭蓋骨の骨化不全）の増加）がみられている（ATSDR（2012））。また、マウスを用い、妊娠中から哺育期間中に経口経路（飲水）で投与した発生毒性試験において、雌児動物で腔開口の遅延がみられ、60日齢での無処置の雄との交配では、妊娠数の減少、着床数の減少、生存胎児数の減少がみられ、雄児動物では発生影響はみられていない（ATSDRしたがって、区分1Bとした。

水溶液はガイダンスに従い、クロム酸カリウムが0.1%以上の製品は区分1とした。

特定標的臓器毒性（単回暴露）

本物質のヒトデータは経皮適用事例のみであり、吸入経路、経口経路のデータはない。1920年のデータであるが、疥癬治療の目的で使用された本物質軟膏の皮膚適用で皮膚壊死による感染の結果死亡した12人の事例では、皮膚の火傷、嘔吐、腎不全がみられ、解剖の結果、心臓の脂肪変性、腎臓の腎尿管の充血、壊死、胃粘膜の充血が認められた。本事例ではさらに、溶血性貧血の所見に加え、重度の白血球増多症が認められている。また、アルブミン尿、乏尿、多尿を伴う急性腎炎が報告され、死亡者の解剖で腎臓の充血、尿管壊死が認められた（ATSDR（2012）、CICAD 78（2013））。本物質についての実験動物のデータはない。
6価クロム化合物によるヒト吸入ばく露で、気道刺激性、気道の炎症、鼻、胸の痛み、咳、呼吸困難、チアノーゼ、腎臓障害、ヒト経口ばく露で、嘔吐、下痢、胃腸管出血、肝臓壊死、腎臓の腎尿管壊死、高用量の偶発的又は意図的な摂取により、呼吸器、心血管、消化器、血液、肝臓、腎臓、神経学的に重度の影響が報告されている（ACGIH（7th, 2001）、CICAD 78（2013）、EHC 61（1988）、EU-RAR（2005）、ATSDR（2012））。
本物質のデータはヒトの経皮適用のみであるが、本物質は6価クロム化合物であり、6価クロム化合物の毒性知見を本物質の分類に使用することが可能と考えられる。消化管の所見については、局所刺激の影響として採用しなかった。以上より、区分1（中枢神経系、呼吸器、心血管系、血液系、肝臓、腎臓）とした。

水溶液はガイダンスに従い、クロム酸カリウムが10%以上の製品は区分1、10%未満1%以上の製品は区分2とした。

特定標的臓器毒性(反復暴露)

本物質を含め、クロム酸又は二クロム酸のナトリウム塩又はカリウム塩のダスト、或いは水溶液を介して6価の水溶性クロムに反復吸入ばく露されたヒトで生じる主な毒性影響は呼吸器への影響で、鼻中隔の潰瘍及び穿孔、気道の炎症、肺気腫、肺の線維化、慢性閉塞性気管支肺症などである(EU-RAR(2005)、CICAD 78(2013))との記述がある。実験動物では本物質をラットに13.5 mg Cr/kg/dayで20日間強制経口投与した結果、本物質90日ばく露換算で、区分2該当量(11.2 mg/kg/day相当)において肝臓に脂質の蓄積、アルカリホスファターゼ、酸ホスファターゼなど肝臓中酵素の組織局在性の変化がみられたとの報告(ATSDR(2013))があるが、この他、他の6価クロム化合物である二クロム酸カリウムをラット、又はマウスに9週間混餌投与試験(EU-RAR(2005))、二クロム酸ナトリウム・二水和物をラット、又はマウスに90日間飲水投与した試験(CICAD 78(2013))では、いずれも肝臓への有害性影響はみられていない。また、ヒトにおけるクロム化合物反復ばく露影響としての肝臓障害の記述はなく(ATSDR(2013))、上記のラットにおける肝臓影響は分類に用いない。

以上、6価クロム化合物として評価するのが適当との観点から、本物質も区分1(呼吸器)に分類した。

水溶液はガイダンスに従い、クロム酸カリウムが10%以上の製品は区分1、10%未満1%以上の製品は区分2とした。

データ不足のため分類できない。

誤えん有害性

12. 環境影響情報
生態毒性

短期: 甲殻類の48時間EC50=0.18mg/Lから、区分1とした。
(急性)

水溶液は、ガイダンスに従い加算法(毒性乗率×10×区分1)+区分2≥25%、及び(毒性乗率×100×区分1)+(10×区分2)+区分3≥25%により分類した。

長期: 急性毒性が区分1、金属化合物であり水中での挙動および生物蓄積性が不明であるため、区分1とした。
(慢性)

残留性・分解性
生体蓄積性
土壤中の移動性
オゾン層への有害性

該当情報なし。

該当情報なし。

該当情報なし。

該当情報なし。

当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。(分類できない)

13. 廃棄上の注意

産業廃棄物処理認定業者に委託して処理する。

14. 輸送上の注意

国際規制

(水生環境有害性 短期:区分1,及び長期:区分1,2の製品)

国連番号

3082

品名(国連輸送名)

環境有害物質(液体)

国連分類

9

容器等級

Ⅲ

海洋汚染物質

該当する

MARPOL73/78附属書Ⅱ及びIBCコードによるばら積み輸送される液体物質

該当しない

輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策

運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷くずれの防止を確実に行う。
移送時にイエローカードの保持が必要。

国内規制がある場合の規制情報

陸上輸送

消防法の規定に従う。

海上輸送

船舶安全法の規定に従う。

航空輸送

航空法の規定に従う。

応急措置指針番号

171

15. 適用法令(クロム酸カリウムについて)

化学物質管理促進法(PRTR法)

各濃度の該非は、別表4.法規制該非一覧を参照してください。

毒物及び劇物取締法

特定第1種指定化学物質、第1種指定化学物質(第2条施行令第1条別表1)[六価クロム化合物]

労働安全衛生法

劇物(第2条別表第2)[クロム酸塩類及びこれを含有する製剤]

特定化学物質特別管理物質(特定化学物質障害予防規則第38条3)

特定化学物質(第2類物質)[重クロム酸及びその塩](特定化学物質障害予防規則第2条)

作業環境評価基準[重クロム酸及びその塩]

名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物(第57条及び施行令第18条、第57条の2及び施行令第18条の2)[クロム及びその化合物]

消防法
航空法
船舶安全法
労働基準法

リスクアセスメントを実施すべき危険有害物
第1類重クロム酸塩、第3種酸化性固体(第2条)
腐食性物質(施行規則第194条・告示別表第1)
腐食性物質(危規則第3条・危険物告示別表第1)
疾病化学物質(第75条第2項・施行規則第35条別表第1)

別表4. 法規制該当非一覧

表示濃度(品名)	含有量 (重量%)	PRTR法	毒物劇物 取締法	労働安全衛生法	
		特定第一種	劇物	名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物	特定化学物質等(第2類物質)
10%クロム酸カリウム溶液	10	該当	該当	該当	該当
5%クロム酸カリウム溶液	5	該当	該当	該当	該当
2%クロム酸カリウム溶液	2	該当	該当	該当	該当
1/30 mol/L クロム酸カリウム溶液	0.65	該当	該当	該当	非該当

16. その他の情報
参考文献

NITE-CHRIP(製品評価技術基盤機構HP)
16615の化学商品(化学工業日報社)
国際化学物質安全性カード(ICSC)

記載内容のうち、含有量、物理/化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報 データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。